



証券コード 3160

**2021年5月期 第2四半期**  
**(2020年6月1日～2020年11月30日)**  
**決算説明資料**

**2020年12月24日**

## 1. 2021年5月期 第2四半期 決算概要

## 2. 2021年5月期 通期業績見通し

## 3. 補足資料

# 1. 2021年5月期 第2四半期 決算概要

(単位：百万円)	20/5期	21/5期	前年同期比		21/5期	計画比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q計画	増減額	増減率
売上高	31,592	27,783	△ 3,809	△ 12.1%	26,400	+1,383	+5.2%
営業利益	121	48	△ 72	△ 60.1%	△ 221	+269	-
売上高比	0.4%	0.2%	△ 0.2%		-	-	
経常利益	148	141	△ 7	△ 5.0%	△ 195	+336	-
売上高比	0.5%	0.5%	+0.0%		-	-	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	66	△ 443	△ 510	-	△ 630	+186	-
売上高比	0.2%	-	-		-	-	

**減収減益、新型コロナウイルス感染症の影響から売上高が減少**  
**計画に対しては、売上・利益ともに上振れて着地**

※ 計画の数値は、2020年9月28日に公表しました業績予想数値を使用しています。

## 売上高

- 新型コロナウイルス感染症の影響から、外商事業の売上が減少
- アミカ事業は来客数が向上、引き続き順調に推移
- 計画比は、想定以上に外商事業の売上が回復したことから上振れ

## 営業利益・経常利益・四半期純利益

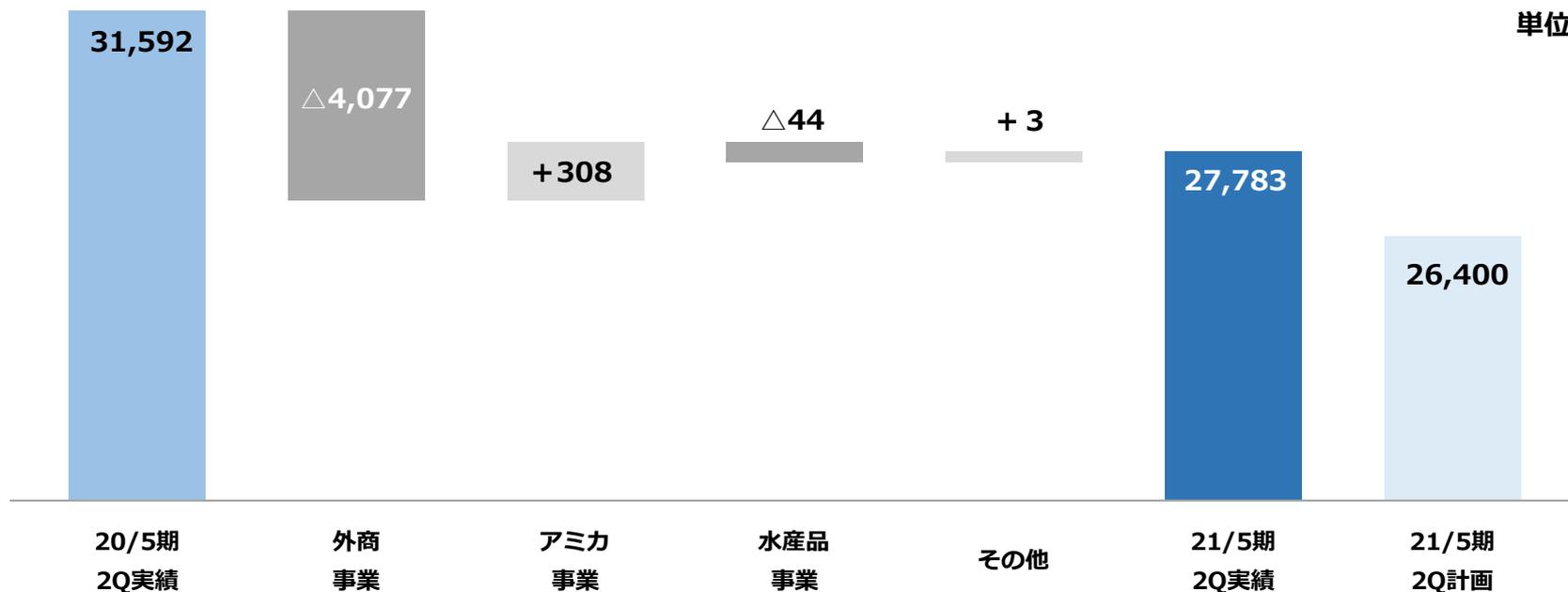
- 外商事業の売上減少に伴う売上総利益の減少が営業利益の減益要因
- アミカ事業は増収増益
- 特別損失の計上、法人税等調整額の計上等により四半期純利益は減少
- 計画比は、売上増加に伴う売上総利益の増加や人件費等の経費抑制の効果から  
営業利益・経常利益・四半期純利益のいずれも上振れ

※ 特別損失：保有する投資有価証券の一部について時価が著しく下落したため投資有価証券評価損431百万円を計上

※ 法人税等調整額：繰延税金資産の一部を取り崩し法人税等調整額138百万円を計上

# 売上高 - 増減内訳 -

単位：百万円



※ 「その他」の区分は、報告セグメントには含まれない太陽光発電事業及びセグメント間の内部売上高を含んでいます。

## 外商事業

インバウンドや宴会需要の減少から、居酒屋・ホテル等の外食業態における得意先売上が減少

## アミカ事業

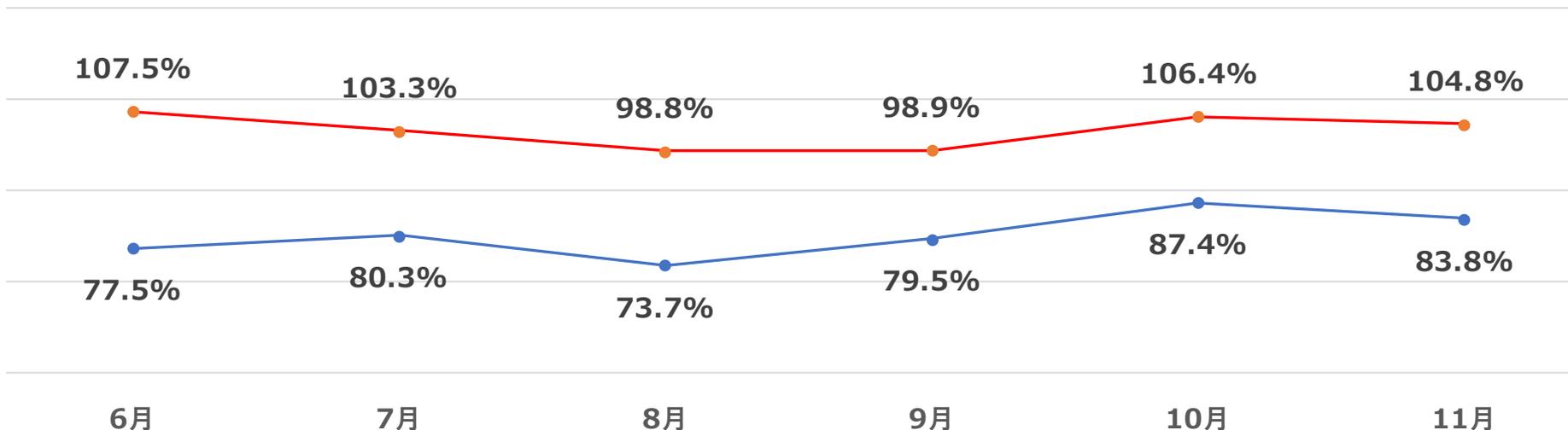
中小規模外食事業者の売上は減少しているものの一般消費者の売上が増加  
一般消費者向けのアイテム拡充等に取り組み、来客数は10%超の増加

## 水産品事業

外商事業と同様に国内における外食業態向けの販売に苦戦  
輸出販売に取り組み全体の売上をカバーするも減収着地

## 第2四半期累計期間の売上高前年同期比の月次推移

● 外商事業 ● アミカ事業



5月25日 緊急事態宣言解除  
 7月下旬から8月上旬 第二波に起因して各都道府県にて営業時間短縮要請  
 8月 夏休み短縮、お盆期間の外出自粛  
 8月下旬から9月中旬 各都道府県にて営業時間短縮要請解除  
 9月 前年同時期に消費増税に伴う駆け込み需要が発生した反動減あり

- 外商事業は、8月に第二波に起因する営業時間短縮要請などから落ち込んだものの前年同期比 80%超まで回復している
- アミカ事業は、前年同時期に消費増税に伴う駆け込み需要が発生した反動などから8・9月の落ち込みが見受けられたものの、総じてみれば好調に推移している

# 連結損益計算書

(単位：百万円)	20/5期	21/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
売上高	31,592	27,783	△ 3,809	△ 12.1%
売上総利益	5,886	5,519	△ 367	△ 6.2%
販売費及び一般管理費	5,765	5,470	△ 294	△ 5.1%
営業利益	121	48	△ 72	△ 60.1%
営業外収益	78	143	+65	+82.8%
営業外費用	51	50	△ 0	△ 0.8%
経常利益	148	141	△ 7	△ 5.0%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	9	431	+421	+4536.5%
税金等調整前四半期純利益	139	△ 289	△ 429	—
法人税等	72	153	+81	+111.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	66	△ 443	△ 510	—

## 売上総利益

- 売上減少に伴い売上総利益が減少

## 販売費及び一般管理費

- 販売費及び一般管理費は前年同期比 5.1%減
- 人員配置の見直し等による人件費の抑制
- Web会議推進や出張自粛による旅費交通費の削減
- 売上減少に伴う減少に加え、配送や庫内作業の見直しに取り組み、運搬費が減少

## 営業外収益

- 助成金収入（雇用調整助成金）の計上により増加

## 特別損失

- 投資有価証券評価損の計上により増加

## 法人税等

- 繰延税金資産の一部を取り崩し、法人税等調整額を計上したことなどから増加

# セグメント別の概要

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	20/5期	21/5期	前年同期比		20/5期	21/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
外商事業	20,730	16,653	△ 4,077	△19.7%	△ 139	△ 292	△ 153	-
アミカ事業	9,932	10,240	+308	+3.1%	725	805	+80	+11.1%
水産品事業	994	950	△ 44	△4.4%	13	6	△ 7	△54.4%
その他 ※	8	7	△0	△2.6%	2	2	+0	+14.6%
調整額 ※	△ 74	△ 70	+3	-	△ 481	△ 473	+7	-
連結	31,592	27,783	△ 3,809	△12.1%	121	48	△ 72	△60.1%

※ 「その他」の区分は報告セグメントには含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでいます。

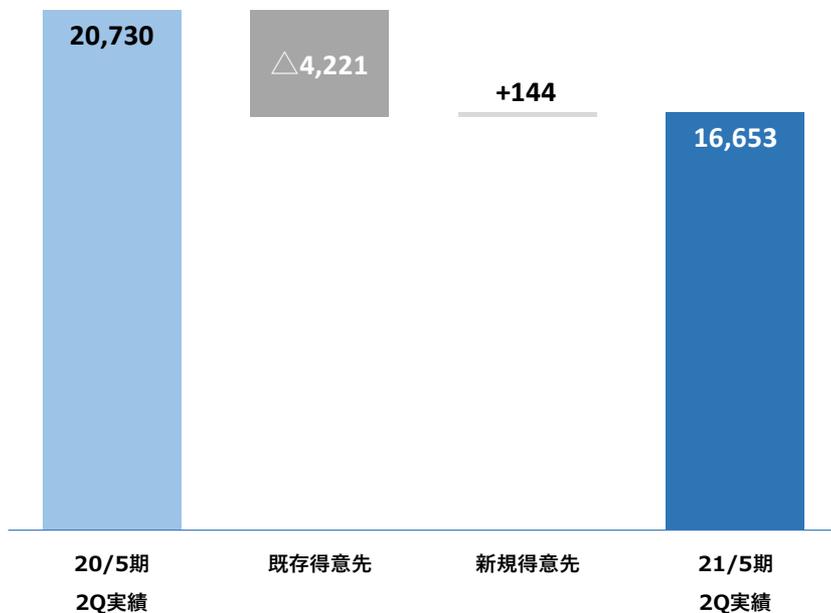
※ 売上高には、セグメント間の内部売上高を含めています。

※ 営業利益の「調整額」は、当社の本社経費等です。

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	20/5期	21/5期	前年同期比		20/5期	21/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
外資事業	20,730	16,653	△ 4,077	△19.7%	△ 139	△ 292	△ 153	-

### 売上高増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 居酒屋、ホテル等の外食業態得意先における売上不振が響き、既存得意先売上は減少
- 新規得意先による売上は144百万円増加
- コロナ影響の少ない給食・中食・病院等の業態に対する販売に注力

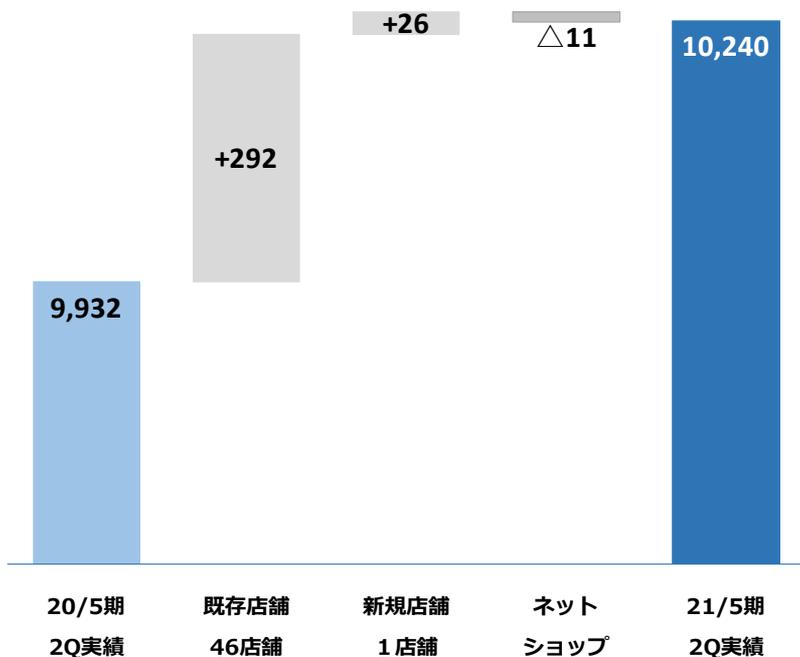
### 営業利益の増減要因

- 売上減少に伴う売上総利益の減少から減益

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	20/5期	21/5期	前年同期比		20/5期	21/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
アメリカ事業	9,932	10,240	+308	+3.1%	725	805	+80	+11.1%

### 売上高増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 家庭内消費に適したアイテム拡充など、一般消費者向けの販促活動に取り組み来客数が向上
- 来客数は前年同期比 10.1%増
- 既存店売上は前年同期比 3.1%増
- 2020年11月に飯田店（長野県飯田市）を開業

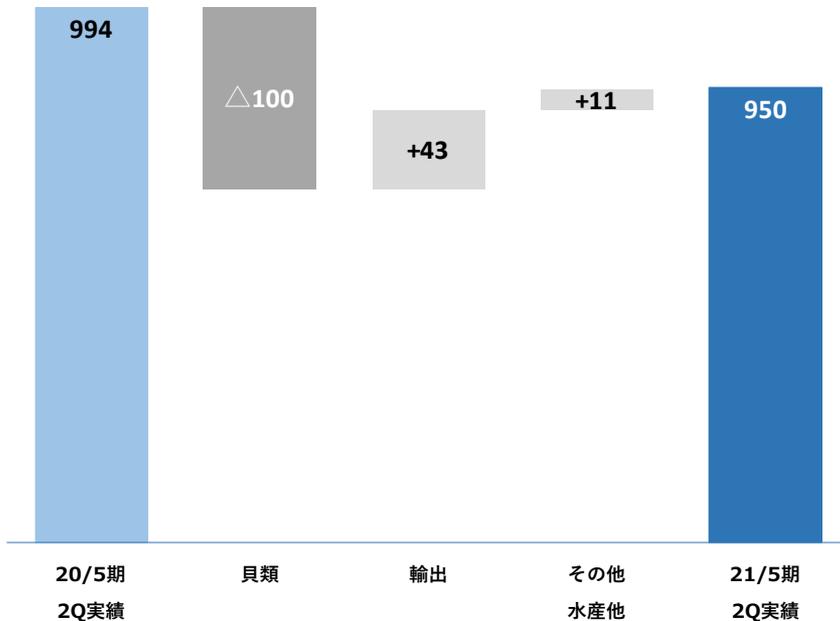
### 営業利益の増減要因

- 売上増加に伴い売上総利益が増加したことから営業利益が増加

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	20/5期	21/5期	前年同期比		20/5期	21/5期	前年同期比	
	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率	2Q実績	2Q実績	増減額	増減率
水産品事業	994	950	△ 44	△4.4%	13	6	△ 7	△54.4%

### 売上高増減内訳

単位：百万円



### 売上高の増減要因

- 外商事業と同様に外食業態向けの販売に苦戦
- 国産帆立貝等の輸出販売に注力し、貝類の売上の落ち込みをカバー

### 営業利益の増減要因

- 売上減少に伴う売上総利益の減少等により減益

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)	20/5期	21/5期2Q	
	5月末	11月末	増減額
流動資産	9,006	9,741	+735
固定資産	7,559	7,311	△ 247
総資産	16,565	17,053	+488
流動負債	8,430	9,592	+1,162
固定負債	3,367	3,027	△ 340
負債合計	11,798	12,620	+822
純資産	4,766	4,433	△ 333
1株当たり 純資産 (円)	359.75	334.58	△ 25.17
自己資本比率	28.8%	26.0%	△2.8%

## 主な増減要因

### ■ 流動資産

商品の減少	△463
受取手形及び売掛金の増加	+1,452

### ■ 固定資産

投資有価証券の減少	△113
-----------	------

### ■ 流動負債

短期借入金の減少	△160
1年内返済予定長期借入金の減少	△172
支払手形及び買掛金の増加	+1,658

### ■ 固定負債

長期借入金の減少	△350
----------	------

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	21/5期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,018
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 391
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 773
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額	△ 146
現金及び現金同等物の期首残高	419
現金及び現金同等物の四半期末残高	272

## 主な増減要因

### ■ 営業キャッシュ・フロー

売上債権の増加	△1,452
投資有価証券評価損の計上	+431
たな卸資産の減少	+459
仕入債務の増加	+1,658

### ■ 投資キャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△306
----------------	------

### ■ 財務キャッシュ・フロー

短期借入金の純減額	△160
長期借入金の返済による支出	△523

## 2. 2021年5月期 通期業績見通し

# 通期業績予想

(単位：百万円)	20/5期	21/5期			21/5期		
	実績	修正計画	前期比		前回計画	前回比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	60,659	57,400	△ 3,259	△5.4%	56,000	+1,400	+2.5%
営業利益	400	370	△ 30	△7.6%	100	+270	+270.0%
売上高比	0.7%	0.6%	△0.0%		0.2%	+0.5%	
経常利益	473	490	+16	+3.4%	150	+340	+226.7%
売上高比	0.8%	0.9%	+0.1%		0.3%	+0.5%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	218	△ 225	△ 443	-	△ 405	+180	-
売上高比	0.4%	-	-		-	-	

## 2020年12月23日公表 業績予想を上方修正

- 上期業績を勘案するとともに、期末（2021年5月）にかけて徐々に従来の売上水準に近いところまで回復していくことを前提条件として策定
- 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益のいずれも上方修正
- 経常利益は増益計画、当期純利益は上期に計上した特別損失等の影響から減益計画

## 外商事業

- ✓ コロナ禍における得意先状況に応じた提案営業の強化
- ✓ 様々な業態に対する新規開拓の強化と既存得意先との取引深耕
- ✓ 物流費をはじめとする経費抑制

## アミカ事業

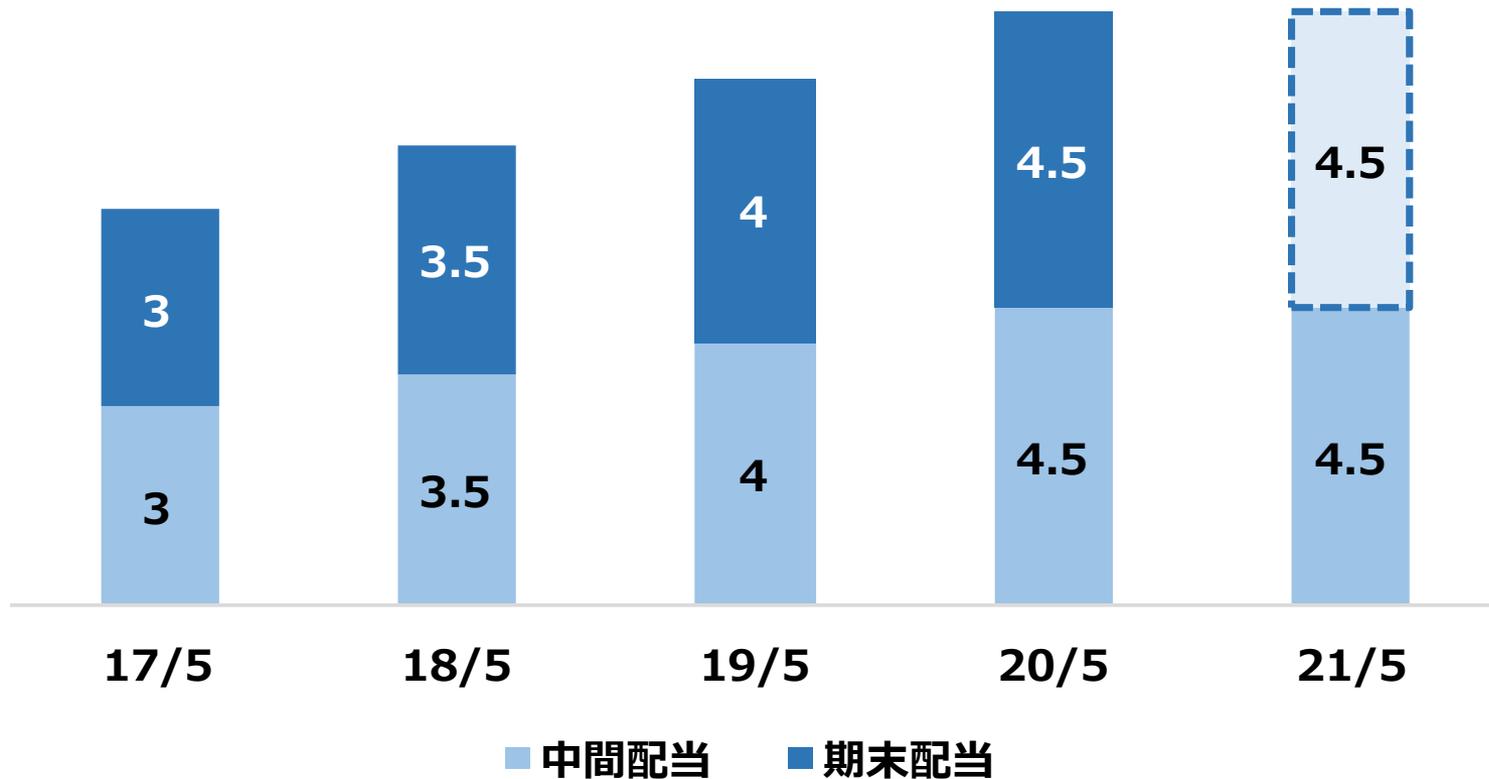
- ✓ 既存店舗の活性化
- ✓ ネットショップの売上拡大
- ✓ 業務の効率化による人件費の抑制

## 水産品事業

- ✓ 国内外の新規開拓、輸出販売の取組み強化
- ✓ 事業間の連携強化による販売網の拡大

## 1株当たり配当金（円）

予想



減益ではあるものの中間配当は4.5円、期末配当は4.5円を計画

## 3. 補足資料

会社名	株式会社大光 (東京証券取引所 市場第一部 : 3160)
代表者	代表取締役社長 金森 武
本社	岐阜県大垣市浅草二丁目66番地
創業	1948年(昭和23年) 6月
設立	1950年(昭和25年) 12月
事業内容	業務用食品卸売および小売業
事業所・店舗	外商事業 : 10事業所 アミカ事業 : 47店舗
子会社	株式会社マリンドリカ
資本金	10億76百万円 ※
発行済株式総数	13,450,800株 ※
株主数	16,294名 ※

(注) 1. ※ はすべて2020年11月末日現在の内容であります。

2. 発行済株式総数のうち、自己株式が200,012株あります。

## 外商事業

〔業務用食品等  
卸売事業〕

外食・給食・惣菜など様々な「食」に関連する企業に  
業務用食品等を販売

対象顧客：大手外食チェーン、中規模外食業者を対象

## アミカ事業

〔業務用食品等  
小売事業〕

業務用食品スーパー「アミカ」及び、業務用食品を販売  
するネットショップを展開

対象顧客：小規模外食業者、一般消費者を対象

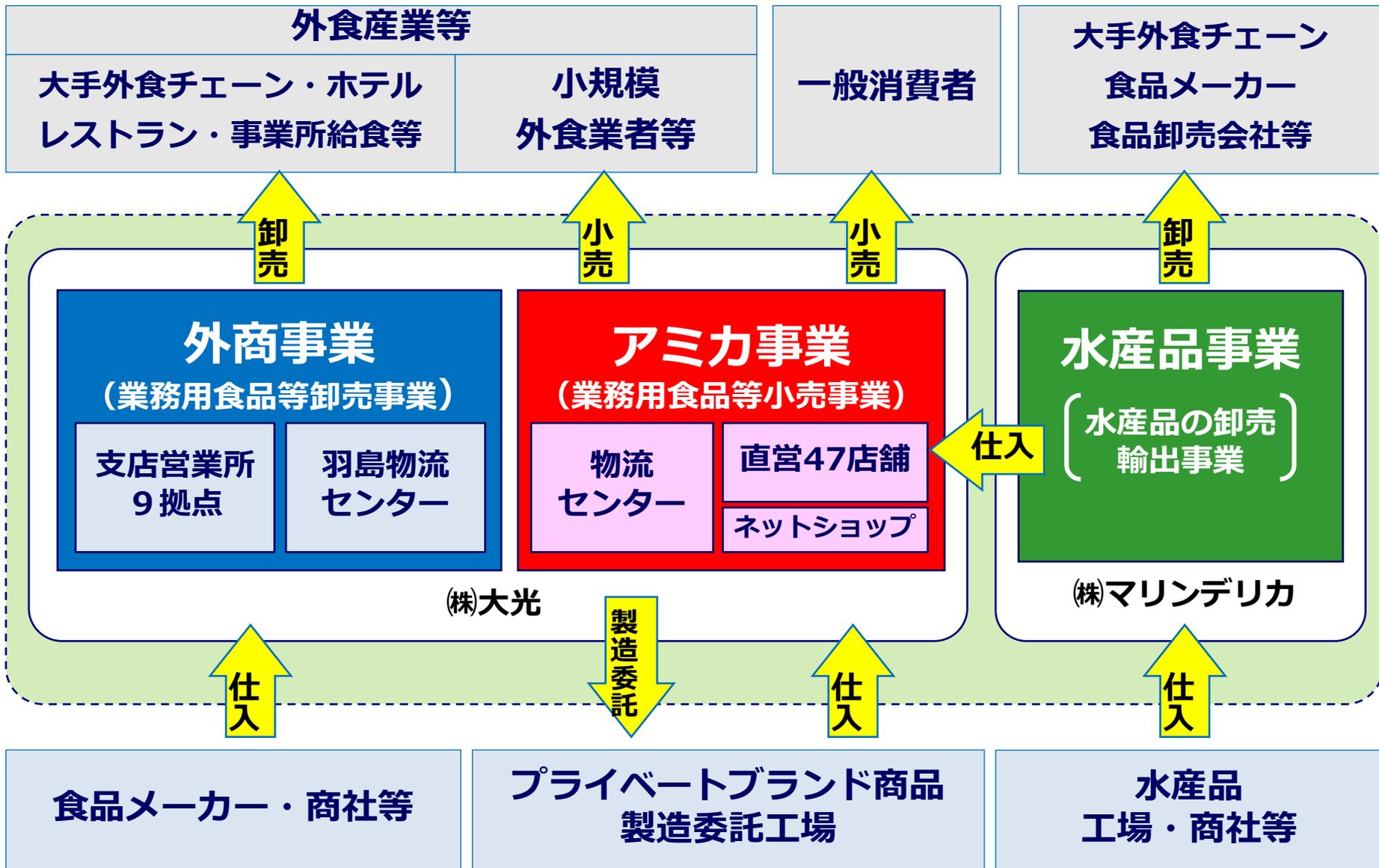
## 水産品事業

〔水産品の卸売  
輸出事業〕

貝類を中心とした水産品の国内販売、輸出販売

対象顧客：全国中央市場、水産会社、食品問屋、  
大手外食チェーンのレストランなど

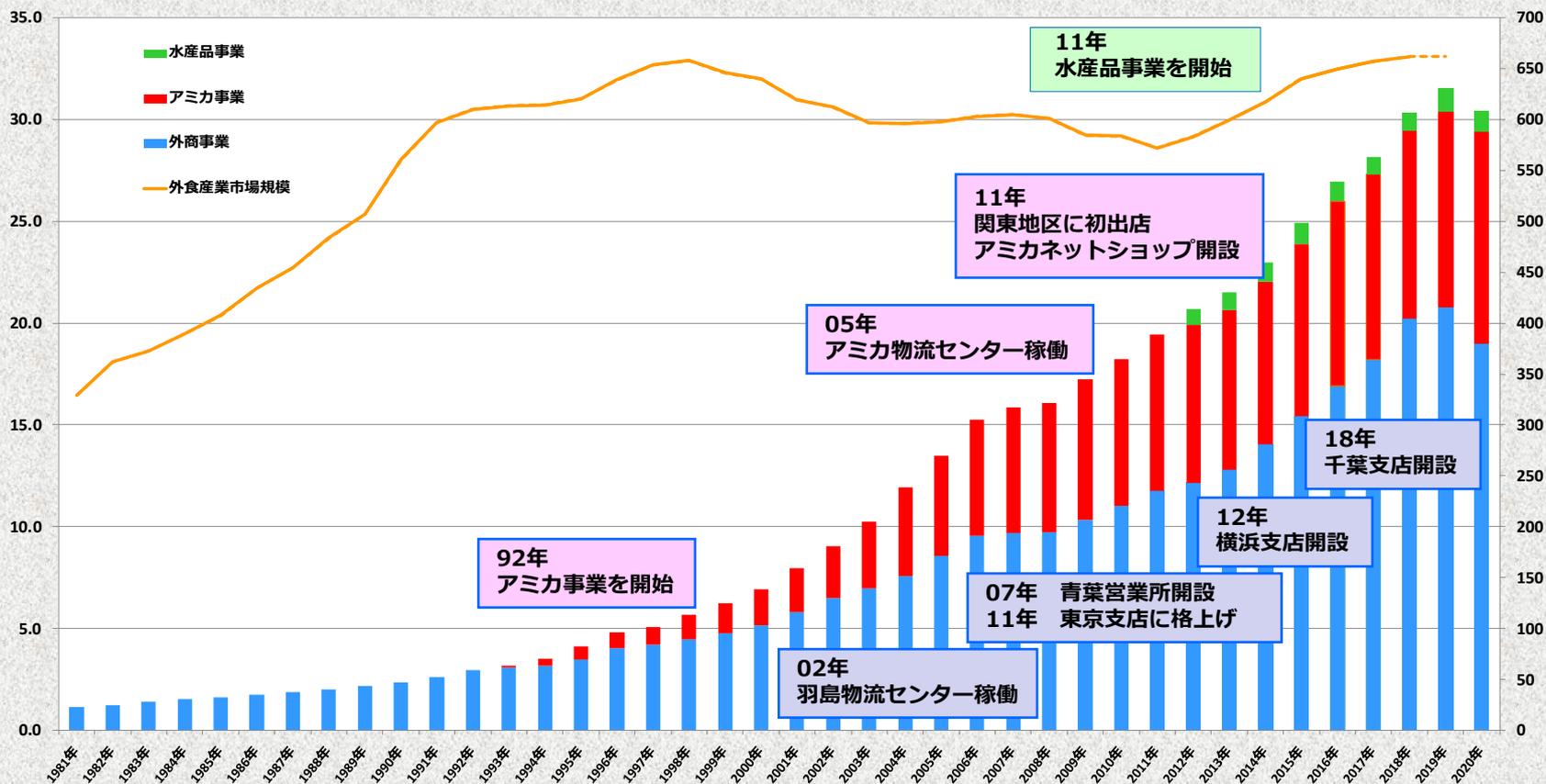
# 事業構造



## 外食産業市場規模が横ばいの中、成長を継続

単位：兆円

単位：億円



出所：外食産業総合調査研究センターの推計より当社が作成

本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。

掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものであります。

通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生などにより、変更する可能性、及び本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じるリスクを含んでおります。

当資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

<お問い合わせ先>

株式会社大光 経営企画室

電話：0584-89-7823（直） FAX：0584-89-7333

E-mail：ir@oomitsu.com

http://www.oomitsu.com/

証券コード **3160**